

みんなで語り合おう!



コミュニケーションで

広げる、伝え合う、母乳育児 Talk to Me! Breastfeeding – a 3D experience?

3D

【訳注】母乳育児を支援する人にとって、2つの要素、すなわち「いつ・どこで」活動するかはそれぞれ違いますが、第3の要素、すなわち「コミュニケーション」の力があれば、時代も場所も越えて、リアルタイムで母乳育児を支援することができます。それを英語の原文では、あたかも映像のように「3D 体験」(3つの次元から成る世界を共有する)と表現しています。



バレエ教室での授乳
© Kathryn Palmateer

Talk to Me!

学校での母乳育児
教育キャンペーン

© Dr. Rajinder Gulati



WABA 2011

www.worldbreastfeedingweek.org

写真は2011年の世界母乳育児週間コンテストの入賞作品
© 2011 Photographer and WABA. All Rights Reserved.

母

母乳育児を保護・支援・推進するために、世界中、みんなと一緒に今年の母乳育児週間を祝いましょう。もしかしたら、こんなふうにいる人がいるかも知れません。「母乳だけで育てている率は世界規模で上がっているのに、今さら、どうして母乳育児について語り合う必要があるの?」「ふつうにだれでもできるんじゃないの?」「それが、私にどう関係があるというの?」と。今年の WABA パンフレットの特徴は、母乳育児支援に長年かかわってきた大ベテランと、足を踏み入れたばかりのニューフェイス(若い WABA のメンバー)が力を合わせて作り上げたことです。



人は皆、自分なりの時代を、そして自分なりの場所を旅しています。けれども第3の要素であるコミュニケーションの力を借りれば、その制約を超えて、さらに旅を充実させることができます。2011年の世界母乳育児週間テーマ「みんなで語り合おう! コミュニケーションで広げる、伝え合う、母乳育児」は、あなたが主役です。かつて子育てをした人、子育て中の人、未来に子育てに携わる人、社会の大切な構成員のあなた、母乳育児の知識を教わりサポートを受ける、あるいは提供する人、それからこの話題は生まれてはじめてだという若い人も! あなた抜きには始まらないのです。

私たちは一人ひとりが個別の役割を担っていて、同時に、この上もなく強力な道具を携えています。そう、なぜ母乳育児が心身の健康だけではなく、環境や女性の人権や社会の発展のために重要なのかをほかの人に伝える「声」を持っているのです。

母乳育児をどのようにとらえたいのか、どのような具体的知識を持っているのか、そうした見識の幅を広げ、奥行きを深めましょう。人と人との交流を、真に血の通ったものにしましょう。そうすることで、今年の世界母乳育児週間を、既成の枠を超える、新しい母乳育児支援の幕開けにするのです。時間や場所の制約を乗り越えるきっかけに。健康な未来への投資に。母乳育児支援という、1つの世界観の共有を目指していこうではありませんか。

「母乳育児ってなんだろう? ~さゆりとマリコの物語~」

母乳育児とは生物としての営みであり、何度も何度も取り上げられてきた公衆衛生上の話題でもあり、母と子を結びつけるものでもあります。母乳育児は〈ミレニアム開発目標(MDG)〉のそれぞれの目標を支え、これからのちの人類の心身の健康や健康な社会づくりに大きな影響力を持っています。

物語を始める前に、母乳育児と〈ミレニアム開発目標〉についてざっと見てみましょう。

ざっと見てみよう!

▶ **MDG 1〈ミレニアム開発目標〉その1 飢餓と貧困**: 子どもの低栄養を減らすための第1歩は、次の2つを守ることです。まず、(生後半年間は)母乳以外のものを一切与えない、最適な母乳育児をすることです。これによって、生まれてすぐからの、子どもの良好な成長が望めます。そして、補完食(いわゆる離乳食)を始めたあとも母乳育児を続けることです。さまざまな食べ物を摂るようになってからでも、母乳を飲むことで栄養の質を高めることができます。また、生活費

1. http://www.breastfeeding.asn.au/advocacy/aba_millenniumDevelopmentGoals.pdf
2. Black RE, Allen LH, Bhutta ZA, Caulfield LE, de Onis M, Ezzati M, et al. Maternal and child undernutrition: global and regional exposures and health consequences. Lancet. 2008 Jan 19;371(9608):243-60.

を減らすという効果もあります。貧困にあえいでいる場合にはなおのこと、その効果は高いでしょう。

- ▶ **MDG 3(ミレニアム開発目標その3)ジェンダー(社会的性差)の平等**：世帯収入の金額にかかわらず、母乳で育てられることで、子どもたちは人生の平等なスタートを切れます。母乳育児は、女性をエンパワーし、女性の性と生殖に関する生活を自分でコントロールし、(母乳代用品*にお金をかけずに)自らの力でわが子に栄養を与えることができます。

【訳注】「母乳代用品」とは乳児用粉ミルクやフォローアップミルクといった人工乳のほか、表示に生後6ヵ月未満の乳児を対象とすることが明記された飲食物も含む。

- ▶ **MDG 4(ミレニアム開発目標その4)子どもの死亡率の減少**：すべての子どもが生まれてすぐに肌と肌をふれあわせて抱かれ、生後6ヵ月間母乳だけで育てられ、月齢に応じた適切な補完食を与えられながら2歳かそれ以上母乳で育てられることで、5歳以下の死亡率は世界中で13～20%減るといわれています。^{3,4}

- ▶ **MDG 5(ミレニアム開発目標その5)母親の健康**：産後の母親の大量出血のリスクは、母乳育児を早期に始めることで減らせます。母乳で育てると授乳性無月経*のおかげで女性が貧血になりにくく、鉄欠乏を減らします。また乳ガンや卵巣ガン、糖尿病にかかるリスクも減ります。

【訳注】授乳性無月経とは、母乳だけを赤ちゃんに飲ませている人のほとんどが、3～6ヵ月以上月経が始まらないことをいう。これは、赤ちゃんがひんぱんに母乳を飲むことにより、母親の体に次の妊娠のための準備(排卵)を始めるホルモンの分泌を抑えるためと考えられている。(参考文献：『だれでもできる母乳育児』メディカ出版)

コミュニケーションには、さまざまな糸口があります。ここでは、1人のティーンエージャー さゆりさんの、母乳育児との出会いの軌跡をたどることで、そうしたきっかけにスポットライトを当てることにします。さゆりさんがどこで情報を得て、それをどう活用し、だれと話をするのか、そしてそのような経験は、彼女の将来にどんな影響をもたらすのかに、着目してみてください。

- ▶ さゆりさんは現代っ子です。さゆりさんの母親は健康でしたが、授乳で痛みを経験し、そのときに周囲のさまざまな支援者から、ああでもない、こうでもないとい貫しないアドバイスを受けたことで混乱し、母乳で育てるのをやめてしまいました。そんなこともあって、叔母がその娘に母乳を飲ませているのを見たことはあっても、さゆりさん自身が母乳育児に直接、接する機会は限られていたのです。さゆりさんは哺乳びんつきのミルク飲み人形で遊び、男性雑誌や電車のつり広告で女性の乳房が性的な対象としてしか扱われていないのを見ました。彼女のこれからの人生におけるさまざまなできごとが、母乳育児への見方に、よい影響、あるいは悪い影響を与えていくことでしょう。

会話の糸口 あなたは、身近なだれかが赤ちゃんに母乳を飲ませている姿を見たことはありますか？ 家族に母乳育児の話を持ちかけてみましょう。それをきっかけに、家族が過ごしてきた年月を振り返り、お互いをサポートしあうと約束することができます。また、今の若者の母親にあたる世代の人たちは、自分自身が子育てしていたころの母乳育児を見直してみることが大切です。その時代なりの母乳育児経験を肯定し、そのうえで、現代社会の現実の中で、子どもの世代が母乳で子育てをするのをどうサポートできるのか、学ぶ機会を得ることが必要です。

紙芝居や実際の授乳シーンは、将来のよい教育になる

© Carmen Pfuyo Cahuatico



- ▶ さゆりさんは若い女性へと成長し、まさに自分の人生の旅に出航するところです。自分の将来に何が待っているのか、じっくり考えています。自ら考えて行動することで、この世界でのさゆりさんの生き方はどう変わっていくのでしょうか。例えば、さゆりさんの母親は、彼女を母乳で育てなかったと言います。さゆりさんは、母親がどんな困難にあったのかを尋ねてみました。さゆりさんの母親は母乳で育てたかったのですが、思うようにいかず、保健センターでの産前学級でも病院の妊婦健診でも、自分の不安や心配な気持ちを話したり質問をしたりする機会がありませんでした。

会話の糸口 母親になったばかりの女性が最初に接する保健医療の場のスタッフは、母乳育児に関する最新の知識を持つだけでなく、どのようにすれば母乳育児を継続できるか助言し、明確な情報を提供する必要があります。複数の研究を総合して、女性にとっての母乳育児支援の受け止め方と経験を検証した2011年の分析によると、保健医療従事者が、心を込めて相手の力を引き出すようなコミュニケーション技術(スキル)を使いながら、実際的な情報を提供することが、いちばん効果的であることがわかりました。人は何かを学ぶとき、受け身ではなく積極的に参加することで、最も学習効果が上がるのです。⁵

3. Black et al Global regional and national causes of child mortality 2008: a systematic analysis. Lancet on line May 12, 2010.
4. Danzhen You, Wardlaw, Chopra et al Levels and trends in child mortality 1990 - 2009, Lancet September 18, 2020, page 932.
5. Schmied, Virginia, et. al. "Women's Perception and Experiences of Breastfeeding Support: A Metasynthesis". 1 Mar 2011.

母親支援グループに参加することで困難を乗り越える女性たち

© Edith Rojas Lopez



さゆりさんは学校の卒業制作として、母乳育児をテーマに選びました。周りの友人は驚いてからかいました。さゆりさんが友人に、母乳育児についてどのように思うのか聞いたところ、だれ一人として考えたこともなかったのです。がっかりしたさゆりさんは、さまざまな疑問に対する答えを求めて調べ物を始めました。すると、母乳育児についての20年分もの研究や、実例の記録や記事が見つかったのです。世の中にはこんなにたくさんの情報があふれているのに、これまでにただの一度も耳にしたことがなかったのは、なぜなのかしら？ さゆりさんは不思議に思いました。

会話の糸口 母親に向けた研究はたくさんありますが、一方、母親になる以前についてはどうでしょう？

母乳育児を保健のカリキュラムに入れたり、公衆衛生に結びつけたりするのは、予備知識を提供するよい方法です。若者はいつでも新しいことに興味がありますし、自分の生活をよくする方法に関心があるものです。母乳育児には広範囲の効果があるのだと知ることは若者が将来、情報提供されたいうえでの選択をするのに役に立つでしょう。

さゆりさんが近い将来、大切な人と家庭を持つことにしたら、一緒に選択肢を考える必要があるでしょう。ただ、その相手が母乳育児について同じような意識を持っているとは限りませんし、友人や家族から、こうあるべきだというようなプレッシャーを受ける可能性があります。女性の乳房を性的対象だと考えるように学んできたかみもしれず、子育てにおける乳房の重要性を理解できないことも考えられます。ですので、男性をあらかじめ母乳育児の理解者にするのが大切なのです。それによって将来、同じ意識を持ち、責任を分かち合い、協力し合うことが期待できるからです。

世界母乳育児週間で
地方行政官の男性が
母乳だけで育てることの
大切さについて話す

© Sarah Onsase



さゆりさんには、シングルマザーで、今は家で働きながら子どもを育てている友人のマリコさんがいます。2人は異なる人生を歩んでいますが、家庭生活や母子保健に共通の関心があります。さゆりさんは、マリコさんが学生のときに妊娠した経験や、どのようにしてサポートを得られたのかを聞くことにしました。

〈マリコさんの体験談〉妊娠がわかったとき、産婦人科に相談に行ったの。無分別に妊娠などして、と医師から叱られるんじゃないかと思うと怖くてびくびくしていたわ。自分の心を落ち着かせるために、保健医療専門家は心が温かくて親切で、きっとどうしたらいいかをはっきり伝え、私をサポートしてくれるはずだって想像してみたの。でも実際に産婦人科の入り口に立ったときは怖かったわ。周りの人たちが陰口を言うのじゃないかって。自分の母親になんて言ったらいいの？ アルバイトをやめさせられるかしら？ こんな大きなおなかで学校に行けるのかしら？ 赤ちゃんが生まれたら生活はどうなる？ 赤ちゃんのミルク代やおむつ代はどうしたらいいのかしら？ 母乳だけで育てるとお金がかからないって習ったっけ？

そうした考えが頭の中をぐるぐる駆け巡っていたとき、親切な看護師が私を落ち着かせてくれたの。その人は、私の話を聴いて、私の悩みを理解し、質問に答えてくれたわ。そして、生後6ヵ月間は母乳をあげるだけで赤ちゃんはすべての栄養がとれると説明されたの。何よりも、その人は私が自らを信じるようにと力づけ、ミルク会社からプレッシャーをかけられても決心を揺らかせないように、励ましてくれたの。

家に帰ってママに話したら、ママは私を抱きしめて泣いたわ。ママも田舎から都会に引っ越して、同じような経験をして、とてもつらかったのを覚えているって。私のママは慣れない環境だったけど、おばあちゃん、つまりママのママに支えられたのですって。私には支えてくれる友人もたくさんできた。私はひとりじゃない。赤ちゃんだって私がついているし、母乳だってあるんだから！



10代の母親の支援：
看護師と支援グループの
おかげで母乳育児が
うまくいった若い母親

© James Achanyi-Fontem

会話の糸口 2008年の世界母乳育児週間では、母親支援、特に女性どうしの横のつながりと助け合いというテーマに焦点を当てました。今回のこの物語でも、まったく異なる道を歩んでいる2人の女性が心を開きあい、マリコさんはさゆりさんに、自分が経験

した紆余曲折を打ち明けています。そのおかげで、さゆりさんは今度、くじけそうになっている母親に出会ったとき、マリコさんの経験を、語りかける糸口にできるでしょう。母乳で育てている母親の仲間として、あなたも母親どうしを結びつけて、体験談を共有する機会を持ったり、より広範囲の地域社会を引き込むように創造的な工夫をしたりできるのです。また、母親の家事を手伝う周囲の社会ネットワーク(上の子どもたち、男性、パートナー、祖母、隣人など)を作るように支援することもできます。母親たちのための声を世界に発信しましょう。

- さゆりさんは、仕事と母乳育児を両立させたい女性はどうするのかしらと考えています。学校の先生に国の母性保護のガイドラインについて質問したところ、男の先生にとっては、考えてもみないことだったようでした。先生の経験から考えると、妊娠や子育ては個人的な問題で、雇用主が何かをしてくれるようなものではないというのです。翌日、さゆりさんは地域の労働組合のポスターに「働く女性は6か月間有給の産後休業をとる権利がある*」と書かれているのを見ました。そこで労働組合に電話をかけ、情報をもっと聞くことにしました。

【訳注】日本では事業者に申請することにより、産前・産後の休業を取得できる。1歳までは1日2回、おのおの少なくとも30分間の育児時間を請求できるほか、希望すれば男女を問わず育児休業を取れると定められている。その間、休業開始前の賃金の30%が、国から給付金として支給される。

(2011年現在、厚生労働省のウェブサイトより)

会話の糸口 雇用の場すべてに、仕事と母乳育児の両立、または働きながら母乳育児を継続できるような産休や育児休業の方針が必要です。そして可能な限り、出産予定日前に母親と雇用主がコミュニケーションを取り合って、両者の合意の下に母親が母乳育児を続けられるように、仕事上の役割と母親としての役割の両方を満たせる実行可能なプランを立てるといいでしょう。

雇用主は、女性が仕事をしていても、母乳で育てる権利があることを認識する必要があります(国際労働連盟ILO 母性保護条約C183, 2000年)。あなた自身がこうした権利をよく知っておくことで、女性が在宅で働いているにしても、あるいはインフォーマル・セクター*で働いているとしても、労働組合と女性団体がこうした大切な情報を母親に伝達する助けになるでしょう。

【訳注】インフォーマル・セクターとは、家族、近隣、地域社会、ボランティア団体、NPOなど公的に制度化されていない集団、組織のこと。家庭内の労働・路上販売・農業など、監督や統計の対象になっておらず、労働法の対象からはずれている場合が多い。



授乳しながらの仕事
© Jennifer L. Kleckner

身近のさまざまなことが、どんどんわかってくるにつれて、さゆりさんはあることに気がつき始めました。それは、ある選択は必然的に次の選択につながっていくということ。そして、転機を迎えたときのコミュニケーションは、人を勇気づけずれば、惑わせもする、両刃の剣だということでした。さゆりさんが経験したこのような立場は、だれにとっても身に覚えがあるでしょうし、また、将来的にも経験するはずで。

保健医療専門家であるあなたは、家族の一員かもしれませんが。若いあなたは、保育士やベビーシッターかもしれません。雇用主であると同時に、仕事と母親を両立させた職場の先輩だという人もいます。私たちの人生にはさまざまな側面があり、それは交差しています。そして、母乳育児はそのあらゆる面と相互作用があるという認識が必要です。

コミュニケーションの主体はどこにあり、意思はどの時点で決定されるのでしょうか？ 政府から国民に。雇用主から、被雇用者へ。家族がお互いに……。どんなふうにもコミュニケーションを取ったら、母乳育児が一部の人のものではなく、ごく当たり前のことになるような変化をおこすことができるでしょう。まずできるのは、母乳育児についての知識の基盤を築くことです。そして、統計やガイドラインを、実際の行動と組み合わせて活用しましょう。

2010年のある研究では、地域社会での活動に関心や注目が高まってきていること、そうした地域の活動は地域社会に住む人々の健康を持続的に改善するために必須であることが強調されています。⁶ 地域社会に根付いた、参加型のリサーチをするという切り口は、地元の声に焦点を当てている点において成功を収めてきました。保健医療団体、福祉サービス団体、母親支援グループ、保険会社、企業、保育所、母親、家族が皆で同じ到達目標である「母乳育児にやさしい環境」を作り出すために、手を取り合ってさまざまな側面で連携しています。

さあ語ろう!

このパンフレットに書かれた「さゆりとマリコの物語」を読んで、コミュニケーションのさまざまなきっかけを見つけることが

6. <http://www.liebertonline.com/doi/pdf/10.1089/bfm.2010.0051>

できたあなたは、今度は「私にはどんなコミュニケーションの方法があるだろう。はたして、何かが変わるのかしら?」と考えているかもしれませんね。2番目の質問に最初に答えましょう。もちろんです。相手を尊重してサポートするような姿勢で差し伸べられた情報には、変化をおこす力があります。

まごころのこもったコミュニケーションは、行動変容理論の基盤です。つまり、行動の変化は第一に、うまくいくかもしれないと認識し、知覚することに根差しているのです。そうです! 自分の知識を分かち合い、支援の手を差し伸べ、自分の感じた疑問を共有しようとするあなたの努力は、必ず変化をおこすでしょう。

それでは、胸に手を当て自分のコミュニケーションを振り返ってみてください。あなたはふだん新しい情報を、それを知らない相手に対してどのように伝えているのでしょうか? その相手のものの見方から、どのように学びますか? あなたの言葉は相手に理解されたでしょうか? 相手にとって必要な情報を提供できたでしょうか? 母乳育児の技術的・専門的な情報は、何年もの年月をかけて、医学系の専門誌ですみずみまで精査を受け、まとめあげられてきたものです。私たちが今、焦点を当てるべきなのは、この情報をコミュニケーションの力で、より広い層の人々、つまり、従来、母乳育児を広めようという運動と無縁だったような、例えば若い人たちに伝えることなのです。

カリフォルニア州のWIC(低所得者層の女性・乳児・子どものための栄養プログラム)協会の報告は、どのように私たちが意思伝達をするかの大切な本質について言及しています。⁷ 研究によれば、人はそれぞれメッセージを伝達する自己流のスタイルがあるというのです。ある人はイラスト、別の人は統計、またほかの人は経験の共有を好みます。

コミュニケーションとは、単なる内容の伝達ではありません。それまでの生きてきた中であなたが積み重ねた理解、経験、文化的背景の集大成がコミュニケーションなのです。前述のさゆりさんとマリコさんの物語でも、さゆりさんの母乳育児観の形成には、彼女が生きてきた過程で経験した、たくさんの「エピソード」が影響を及ぼしていることがわかるでしょう。母乳育児のことをあまり知らないだれかに話をする場合、相手の話を最後までしっかりと聴きましょう。

母乳育児についてどこで聞いたことがあるか? 個人的に見たことがあるか? 地域社会における相手の役割は、母乳育児支援にどのようにプラスになりどのようにマイナスになるか? あなたの伝えたい主要なポイントを相手に合わせてつないでみましょう。例えば、若い学生に話すときは、母乳育児が環境にどのように影響を及ぼすか、あるいは、どのような女性保護の方針が若い専門職のためにあるのかについて、話すといいでしょう。

あなた自身の地域社会や文化的慣習について調べたいと思うかもしれません。母乳だけで育てている率はどのくらいでしょうか? 保健医療の実践はどうでしょうか? 母乳育児

や乳児用人工乳の使用に影響するマーケティング戦略はどうですか? 母乳育児のイメージは? こうしたことが、地域の実情に合ったメッセージを考えるのに役立ちます。母乳育児は健康にいいというメッセージを伝えることで、人々を啓発できるのは周知の事実です。けれども、ただ知識を提供するだけでは、母乳育児を支援する環境を作り出すことはできないのです。

伝達者としてもう1つ大切なのは、使う言葉に気をつけることです。Diane Weissingerは、母乳育児についてどのように語るかによって、人々が情報をどのように自分の中に取り込んでほかの人に伝えるかが影響を受けることを指摘しています。⁸ 言葉が肝心なのです。

▶ 「最善の、理想的な、最高の、完全な、特別な」という言葉を避けましょう

このような言い方をすると、あたかも母乳育児は努力してやりとげるべき「すごいこと」であって、日常とはかけ離れたことのような印象を与えてしまうかもしれません。母乳育児は「ふつう」であって、それ以外の乳幼児の栄養法はおしなべて、それに及ばない選択肢なのだと伝わるような表現を心がけましょう。

▶ 罪悪感に気をつけましょう

いろいろな理由から母乳で育てていない女性もいます。それはその女性のせいではないのです。母乳育児が当たり前のようにできる支援を心がけて、母乳で育てないことを責めるのはやめましょう。すでに罪悪感を抱いている女性に、さらに罪悪感が増すようなことは決して言うてはいけません。母親がどのような選択をしても支持しましょう。

▶ 関係性に焦点を当てましょう

母乳で育てることは、自然に手をかけて子どもを育てることもあります。つまり、母乳育児を語る時、私たちは得てして、母親がいかに「乳房で栄養を子どもに与えるか」に集中しがちですが、大切なのは、きずなを深めたり、慈愛を込めて子育てをしたりすることの意義です。母乳育児は子どもの心身の発達のためだけでなく、母親自身のエンパワーメントにもなっていることを忘れないようにしましょう。そう、母乳育児は、「母乳という物質」以上の意味があるので。



7. http://bmsg.org/pdfs/BMSG_Issue_18.pdf

8. <http://www.motherchronicle.com/watchyourlanguage.html>

3、2、1 → アクション!

ここまで、個人対個人の対話のしかたを学んできました。そこで今度は、大勢がかかわる母乳育児週間において、どんなコミュニケーションのきっかけがつかめるかを、皆で考えてみましょう!



学校、大学、保育園、保健センター、地域社会の団体、社会運動とリンクさせましょう。このとき若い人たちの力が最も助けになります。

保護しましょう 世界母乳育児週間のお祝いイベントの勢いを維持しましょう。参加者にインタビューをしたり、地域の母乳育児に関する簡単な統計やコメントを集めたりして、その結果を使って母乳育児にやさしい環境づくりのための陳情をしましょう。

推進しましょう 2011年のテーマを生かして、あなたが手がけるイベントを広報するための創造的な方法を見つけましょう。

支援しましょう 周囲を見渡し、世界母乳育児週間のプログラムやイベントの計画に協力してくれそうな人を見つけましょう。皆の力を合わせることが大切です! そして、あなたのほうからも質問してみましょう。行動を変えることができる「コミュニケーション」の力について、学びましょう。教わったコミュニケーション技術(スキル)を、実際に使ってみましょう。ネットや携帯を利用した新しいコミュニケーションや、アプリ(アプリケーション・ソフト)やソーシャルメディアを知っていますか? これらの力を借りれば、世界中の若者とのコミュニケーションが可能になります!

参考になりそうな行動のアイデアやサクセス・ストーリーを紹介しましょう!

	世界母乳育児週間の目標	行動のためのアイデア	サクセス・ストーリー
1.	<p>▶ 新しいメディアを使って母乳育児情報をより多くの人に広めましょう。</p>	<p>ブログやフェイスブックやツイッターを使ったり、フォローをしたりして、ほかの母乳育児支援者とつながって協力しましょう。</p>	<p>ケリーママのサイト(kellymom.com)は、フェイスブックで3万人以上のフォロワーがいて、そこで情報を共有したり母親どうしを結びつけたりしています。</p>
2.	<p>▶ 母乳育児情報にもっとアクセスでき、母乳育児へのフィードバックがより多くなるように、さまざまな分野の人たちとコミュニケーションをしたり、その機会を増やしたりしましょう。</p>	<p>母乳育児について語り合う催し「ワールド・カフェ*」を開催しましょう。⁹</p> <p>訳注</p> <p>ワールド・カフェとは、ワークショップの手法の1つ。カフェのように複数のテーブルを用意し、テーブルごとにオーナー(1~2人)を決める。参加者は1つのテーブルで議論をしたあと、オーナー以外の全員が別々のテーブルに移動して新しい議論を続ける。これを繰り返していくと、テーブルごとに議論しているが、全員で議論しているような一体感が味わえる。テーブルに模造紙を広げて、議論のメモを残すと効果が高まる。</p> <p>(参考文献:『チーム・ビルディング—人と人を「つなぐ」技法』堀公俊、加藤彰、加留部貴行 日本経済新聞出版社 2007)</p> <p>地元の情報伝達者である教師、ジャーナリスト、メディア、学生、地域社会の世話役などと連絡を取って、大切なメッセージを発信・共有したり、人々の意識を高めたりすることに協力を求めましょう。</p> <div data-bbox="548 1921 950 2101" style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>授乳時の赤ちゃんの抱き方をテレビ番組で語る10代の母親(カメルーン)</p> <p>© James Achanyi-Fontem</p> </div>	<p>インドの Tamizhosai ラジオの若者と科学フォーラムは、母乳育児に関するクイズ番組を後援しました。このイベントに学生、保健医療従事者、専門家、母親が参加し、インドのすべてのラジオ局と国営テレビでイベントが紹介されました。</p> <div data-bbox="961 1742 1360 2078" style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 200px; margin: 10px auto;"> </div>

世界母乳育児週間の目標	行動のためのアイデア	サクセス・ストーリー
<p>3.</p> <p>▶ 母乳育児教育や保健医療教育の場でコミュニケーション技術(スキル)を使い高めましょう。</p>	<p>地域の保健センターと連携して、自宅訪問やトレーニングを始めるように支援しましょう。</p>	<p>Force 7という若者向けのソーシャル・マーケティングのチームは、保健医療専門家が若い親に母乳育児を推進する最も効果的な方法として、新しいタイプのトレーニングや情報提供プログラムを作りだし、母乳育児の開始率を高めることに成功しました。¹⁰</p>
<p>4.</p> <p>▶ 新しく母乳育児支援者になった人たちをサポートしましょう。</p>	<p>祖母や年配の家族に最新の母乳育児情報を積極的に伝えて、若い母親に影響を与えるよう協働しましょう。</p>	<p>今年のサクセス・ストーリーを待っています!</p>
<p>5.</p> <p>▶ 新しいタイプのコミュニケーションのしかたを創造、支持、認識、実行し、人々が自分たちのアイデアを創出できる場を設けましょう。</p>	<p>人々が創造的な方法で母乳育児のストーリーを分かち合ったり、魅力的に見せたりするようなイベントを開催しましょう。</p> <div data-bbox="542 922 993 1196" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1024 1099 1373 1249" data-label="Text"> <p>母乳育児への関心を次の世代にアートで伝える © Lynette Sampson</p> </div>	<p>イギリスの団体「ベスト・ビギニング」の「英国に母乳育児の復活を」というテーマの展示イベントでは、複数の芸術協会の共催で、母乳育児を取り巻く見方や、未来の親になる若い参加者の母乳育児のイメージがよりよいものになるような肖像デザインを扱っています。¹¹</p>
<p>6.</p> <p>▶ 母乳育児の支援(アドボカシー)の輪を広げ、今まであまり母乳育児にかかわりの少なかった団体を巻き込みましょう。(労働組合、人権団体、環境団体、若者)</p>	<p>学校や大学のカリキュラムの中に母乳育児を積極的に取り込むようにし、ほかの社会的な関心を持って活動をしていた団体と連携して、さまざまな課題を通して母乳育児に焦点を当てましょう。あなたの雇用主や地方自治体に、世界母乳育児週間のスポンサーになるよう働きかけましょう。その際に、国際規準の範囲の製品(訳注:人工乳や哺乳びんなど)のメーカーや販売店がスポンサーになったり、共催したりすることのないように、利益相反*を防ぐ必要を強調しましょう。</p> <p>【訳注】この場合の利益相反とは、いちばんに優先されるべき母と子の福祉(一時的利益)が、保健医療従事者自身の金銭的報酬など(二次的利益)によって、不当な影響を受ける恐れがある状況をいう。</p> <div data-bbox="732 1765 1024 1951" data-label="Text"> <p>現在そして未来は子どもたちの中にある。子どもたちに母乳育児と環境について教える © Edith Rojas Lopez</p> </div> <div data-bbox="1013 1630 1425 1944" data-label="Image"> </div>	<p>北キャロライナ大学のキャンパスにある、キャロライナ世界母乳育児研究所と女性の心身の健康のためのセンターは、毎年、母乳育児とフェミニズムについてのシンポジウムを開催して、母乳育児とジェンダー(社会的性差)の問題の対話を通じて、両分野の学生や専門家を連携しています。¹²</p>

9. http://www.swaraj.org/shikshantar/expressions_brown.pdf
10. <http://www.force-7.co.uk/news-article/breastfeeding-training-programme.php>
11. <http://www.bestbeginnings.info/get-britain-breastfeeding>
12. <http://www.uncg.edu/hhp/cwhw/symposium/homepage.html>

母乳育児支援ネットワーク(BSNJapan) 発行資料のご案内



- 母乳育児支援ネットワーク10周年記念誌
1,500円 2010年
A4版 122ページ

WABAパンフレット199
8~2009完全収録
BSNの10年間の歩み
ほか



- WABA YOUthパンフレット
母乳で子育て
若い私たちは行動することが出来ます!
100円 2010年
A3 六つ折り 第2版
翻訳 本郷愛実(大学生)

若い人に母乳育児のよさと大切さをアピールしています。



- 世界母乳育児週間2010年パンフレット
日本語版
母乳育児 ただ10か条を守るだけ!
150円
A4判 8ページ



- 世界母乳育児週間2009年パンフレット
日本語版
母乳育児 災害時・緊急時を生き抜くために
150円
A4判 8ページ



- 世界母乳育児週間2008年パンフレット
日本語版
お母さんへの支援:
金メダル「ゴールド・スタンダード」を目指して
150円
A4判 8ページ



- 入門WHOコード
マンガでわかる
国際規準
400円
A5判 12ページ

母乳代用品の販売流通に関する国際規準の内容・目的をマンガでわかりやすく、具体的に解説しています。

資料1部の場合は、送料+梱包料で100円。各資料1部ずつの場合は、送料+梱包料200円。重さによって変わります。総額1万円以上のお申し込みについては、日本国内の送料が無料になります。

翻訳・発行:母乳育児支援ネットワーク Breastfeeding Support Network of JAPAN (BSNJapan)

このパンフレットの翻訳・発行はWABAの許可により実現しました。

日本語訳の転載、複写を希望される場合は、必ず事前に母乳育児支援ネットワークまでお問い合わせください。

問い合わせ先 infoobsn1@gmail.com
<http://www.bonyuikuji.net> / FAX 03-5814-1306

〈理事名〉[●は翻訳担当]

●多田香苗(代表)、池田まこ、●稲葉信子、入部博子、沢潟裕子、小竹広子、●瀬尾智子、高橋有紀子、●円谷公美恵、西田真奈美、長谷川万由美、福原敦子、●本郷愛実、三浦孝子、村上麻里、●山崎陽美、●涌谷桐子、柳澤美香、吉澤志麻、渡辺和香 〈翻訳協力〉本郷愛実
BSNの理事会は、医師や助産師などの保健医療専門家のみならず、社会福祉やメディア社会学、法律の専門家、および母乳育児支援団体の母親リーダーなどを含むメンバーで構成されており、母乳育児がしやすい社会をめざして活動を続けています。

謝辞

Acknowledgements: WABA would like to thank Katherine Houg for drafting this year's WABA WBW Calendar and Action Folder, and the following individuals and organisations for their review and inputs. Writers: Katherine Houg. Final Editing: Julianna Lim Abdullah. Advisors: Felicity Savage, Sarah Amin, Miriam Labbok, Lourdes Fidalgo, Marta Trejos. Contributors: Amal Omer-Salim, Amura Hidalgo, Anne Deveraux, Jennifer Mourin, Manami Hongo, Rebecca Magalhaes, Veronica Valdes, Virginia Thorley, Louise James, Pushpa Panadam, Tereza Toma, Khaterine Rodriguez, Floryana Viquez, Johanna Begerman, Sue Saunders, Elise Van Rooyen, Els Flies, Amara Peris, Nune Mangasaryan, Paige Hall Smith, Alison Linnecar, Annelies Allain. Production: Julianna Lim Abdullah, Pei Ching and Adrian Cheah.

このプロジェクトはノルウェー開発協力庁の資金援助を受けています。



世界母乳育児行動連盟(WABA)は、母乳育児を保護・推進・支援する個人と組織の世界的なネットワークです。WABAの活動は、「イノチェンティ宣言」、「すばらしい未来を作り出すための10のリンク(連結)」、「乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略」に基づいています。中心となる仲間は、乳児用食品国際行動ネットワーク(IFBAN)、ラレーチェリーグ・インターナショナル(LLLI)、国際ラクテーション・コンサルタント協会(ILCA)、ウェルスタート・インターナショナル(Wellstart International)、母乳育児医学アカデミー(ABM)です。WABAは、ユニセフ(国連児童基金)の諮問資格を有し、また、国連経済社会理事会(ECOSOC)の特殊協議資格をもつNGOです。

WABAはいかなる形でも、母乳代用品、関連する器具や補完食を生産する企業からの資金援助はお断りしています。WABAは世界母乳育児週間の参加者全員が、この倫理上の立場に従い、これに敬意を払ってくださるようお願いしています。

母乳育児支援ネットワークは、WABA(世界母乳育児行動連盟)を日本で紹介するとともに、日本での母乳育児を支援する活動をおこなうことを目的として2000年に設立された非営利団体です。WABAの支援団体として登録されており、母乳育児支援に関心のある方の参加と協力をお待ちしております。

入会希望の方は、次の事項を振込用紙の通信欄にご記入のうえ、年会費(3,000円)をご送金ください。お名前・ご住所・電話番号・FAX番号・E-mailアドレス・所属や母乳育児とのかかわりなど。

■会員特典

- 入会時に刊行物を進呈します。
- 毎年のパンフレット日本語訳を送付します。
- 資料購入の際の割引制度があります。
- 会員向けメーリングリストに登録できます。

送金先: 郵便振替口座 00110-2-611471
加入者名 母乳育児支援ネットワーク

翻訳発行 2011年10月
定価 ¥150(特別価格)